2017 年度　卒業研究

ファッション写真及び日本人写真家を対象とした研究の実態調査
- 4 つの日米論文雑誌について

慶應義塾大学
環境情報学部
71347716

平山雄士

要約

ファッション写真を題材にした国内外の書籍や論考に、海外で活躍した特定の写真家を研究対象とした研究が多く見られるのに対して日本国内で活躍した特定の写真家を研究対象とした論文を見かけることがなかったことから、アカデミックな分野でスポットを当てられる対象には偏りがあるように感じた。本研究では、日米の写真・ファッションの分野で日本人写真家がどのように研究されてきたかの一例として、4 つの論文雑誌を対象として実態を調査する。

2-1 では、4 つの雑誌においてどれだけファッション写真/写真家についての論文が掲載されているか調査した。2-2 では、4 つの雑誌においてどれだけ日本人についての論文が掲載されているか調査した。2-3 では 4 つの雑誌において論文の主題となった人物の国籍を調査した。

4 つの論文雑誌を調査した結論は以下の通りだ。米国の雑誌では米国・ヨーロッパの一部の出身者を対象とした論文を掲載することが多く、日本人についての論文が非常に少ない。また、ファッション写真家についての論文は多くはないがいくつか見つかる。一方で、日本の雑誌では高い割合で日本人についての論文がある。そしてファッション写真に関する論文はほとんどない。

目次

1 序章
1.1 研究テーマ・研究の背景
1.2 先行研究
1.3 研究対象
1.4 ファッション写真の歴史

2 本論
2.0 ファッション写真の歴史
2.1 各雑誌に掲載さ入れたファッション写真家/写真に関する論文
2.2 各雑誌に掲載された日本人に関する論文

3 結論・考察

4 参考文献

1 序章

1.1 研究テーマ・研究の背景

そもそもファッション写真という言葉を定義することは難しい。森友は『広義にはファッションを主題とした写真全般のことで、狭義にはファッション雑誌に掲載されたそれを意味する』と語る。(2000 森友)この通り考えると、ファッションブランドが広告のために写真家に依頼して撮影したイメージフォトに限らず、写真家が芸術活動の一環として撮影したポートレイトや素人がスマートフォンで撮影したスナップ写真までも該当する。

筆者の関心から、とりわけ一般雑誌に掲載された写真やその撮影者を題材にした国内外の書籍や論考に触れる中で、海外で掲載された海外の写真/写真家を研究対象としたものが多く見られるのに対して、日本国内で掲載された写真/写真家を研究対象とした論文を見かけることがなかった。

日本人が撮影したファッション写真や写真家を対象とした研究がアカデミックな世界から抜け落ちているのではないかと思い、実態を調査したいと考えた。

1.2 先行研究

海外の特定写真家のファッション写真を対象とした研究は雑誌掲載物に限らなければ多数存在する。その視点は様々だが、写真史、ジェンダー論として研究がされることが多い。例えば写真史の分野では、マンレイの技術革新が語られている。ジェンダー論の分野では女性写真家の作品を例に挙げ、男性写真家との視線の違いについて比較する論調などがある。

一方で日本国内の写真家についての論述はほとんど見当たらない。日本のファッション雑誌に乗せられた写真そのものに関しては、広告研究・雑誌研究・服飾史研究としてその存在について言及されることが度々あるが、特定の写真家に対しての考察はされていない。

また、これらの研究が俯瞰してどのような状況にあるか（誰がどういった視点からどのくらい研究されているかなど）を調べた事例はない。

1.3 研究対象

社会学、歴史研究の傾向が強くいもののうち、査読があり、最も歴史が古いものという基準で以下の論文誌を選定した。米国の写真分野からは『History of

photography』を選定した。米国のファッション分野からは『Fashion theory』を選定した。日本の写真分野からは『日本芸術学会誌』を選定した。日本のファッション分野からは『ファッションビジネス学会誌』を選定した。

1.4 ファッション写真の歴史

・海外ファッション写真の登場

　ファッション写真は『VOGUE』の元に生まれ育ったと言われている。アメリカでは 19 世紀後半に服飾を題材とする女性誌が刊行されるようになり、20 世紀には数百万部という数のファッション誌が発行されていた。そのようななかで 1892 年に創刊された『VOGUE』は、紳士淑女のための社交界情報誌として発行され定価は１０セントであった。服飾関連記事や小説や詩といった当時としては一般的な内容に加え、社交界の観光総裁や社交イベントを告知するなど、ハイターゲットな内容だった。1909 年にコンデ・ナスト社によって買収されたのをきっかけにファッションに特化した紙面構成を行うようになり、絵画主義的なアドルフ・ド・メイヤーやモダニズム的なエドワード・スタイケンと言った現在では著名なファッション写真家が 20 年代には出揃うようになった。『VOGUE』でファッション写真が掲載され始めるとすぐに、対抗誌であった『Harper’sBAZAAR』も追う形でファッション写真を掲載し始めた。『Haper’s Bazaar』は創刊当時『VOGUE』と値段こそ同じだったが売り上げが伸び悩み、1913 年に大衆出版大手のハースト社に買収されており、内容はやや大衆的だった。『VOGUE』に対抗するべくアートディレクターや写真家の引き抜きを行い、ここから両紙の対立的かつ写真については寡占的な状況が続く。

・1930 年代の動向

マーティンムンカッチやマン・レイが最も著名だ。現在の写真史上でもその技法は重要視されているようで、写真研究者によって論じられている。

・1940 年代の動向

この時代ではセシル・ビートンが著名。この頃には多くの男性が戦争に駆り出されたためか、女性写真家が多く登場する。

・1950 年代の動向

今日ではリチャード・アヴェドン、アーヴィング・ペンなどが非常に著名である。『VOGUE』・『Harper’sBAZAAR』両紙の静的・動的な視点が度々論じられて

いる。
・1960 年代の動向
古賀は『VOGUE』について、1950 年代まではハイソサエティのための高級モード誌だったが、60 年代以降は芸術性の高い写真表現の先鋭的なファッション誌になったと語っている。実際、1960 年代は広い意味でのファッション分野でも新しい活気に満ち溢れた時代だった。1959 年にマリークワントがミニスカートを発表するが、それはロンドンのストリートファッションに影響を受けてのことだった。1965 年にはアンドレクレージュもミニスカートを発表し、多くの若者を虜にした。プレタポルテが台頭するのもこの頃だ。1960 年代はまさしく、ファッションが若者のものになった時代だった。それに伴い若い写真家たちが注目される。デイヴィッド・ベイリー、バート・スターン、テレンス・ドノヴァン、ボブ・リチャードソン、ノーマン・パーキンソンなどだ。
また、MoMA の写真部門の部長であったジャン・シャーカフスキーは、写真家に頼ることの多かった雑誌の内容と形式は、1960 年代頃には次第にアートディレクター、編集者等からなる委員会で決定されるようになり、写真家の権威は減少していったと語っている。また、1941 年から 1966 年まで『VOGUE』のアートディレクターを務めたアレキサンダー・リーバーマンは 1983 年に、写真家はファッション写真によって得た経済的裏付けを元に、自らの創造的・芸術的な欲求を満たすべきだと語っている。

・1970 年代の動向
1970 年代に入るとこれまで以上に露骨に性的な表現が登場する。ヘルムート・ニュートンやデボラターバヴィルのポルノ的な作品である。『VOGUE』に関して言えば、この頃に紙面の雰囲気が変わり、働く女性を対象とした社会的記事が多く見られるようになった。この頃には『VOGUE』・『Harper’sBAZAAR』共に売り上げを落とし、勢いをなくしていく。

・1980 年代以降の動向
1980 年代から今日に至るまで著名な写真家が登場し、彼らの写真集や展示は容易に手に入れることができる一方で、アカデミックな論考は 1970 年代までの作家に集中しており、80 年代以降に関するものはそれほど多くはない。

・日本ファッション写真の登場
日本で雑誌に掲載されたファッション写真が登場するのは『アンアン』の登場を待つことになる。『アンアン』は 1970 年にフランス『ELLE』の提携誌として創刊されるが、内容は主にフランスのファッションを伝えるもので、創刊号ではフランスに旅するモデルの立川ユリをカメラマンの立木三朗が撮影している。初期の『アンアン』に限って言えば吉田大朋、斉藤亢、大倉瞬二といった数人のカメラマンが撮影を担当している。特に吉田は、1961 年に雑誌『ハイファッション』で写真家デビューし、1965 年にパリへ渡り『ELLE』と専属契約を結ぶなどファッション写真に精通していた。

・80 年代以降の日本ファッション写真
『アンアン』以降、グラビア印刷の普及とともにファッション写真を掲載した日本のファッション誌は増え続け、篠山紀信や荒木経惟、立木義浩のような著名な写真家も携わっている。現代では蜷川実花や奥山由之といった若手の写真家も各雑誌で撮影を行ない、それを足がかりに有名になっていく者も多い。

2 本論

2.1 ファッション写真家を題材とした論文

前述の 4 誌を対象に、特定のファッション写真家を主題とした論文を巻数ごとにリストアップした。米国の 2 誌においては、特定のファッション写真家を主題とした論文は複数見つかったが、数が少ないので該当論文を列挙する。このうち、日本人のファッション写真家にスポットを当てたものは見つからなかった。また、日本の 2 誌では、特定のファッション写真家についての論文が見つからなかった。

{History of photography　に掲載されたファッション写真家に関する論文}

・Dennis E. Lowe(1978) “Mathew Brady at Gettysburg” vol.2

・Charles Mann (1982) “Eudora Welty, photographer” vol.6

・Ralph Harley Jr. (1990) “Edward Steichen's modernist art-space” vol.14

・Melinda Boyd Parsons(1993) “Edward Steichen's socialism” vol.17

・Jacqueline Ellis(1996) “Esther Bubley: FSA Documentarist” vol.20

・Melody Davis(1997) “Lee Miller: Bathing with the enemy” vol.21

・Ann Sass(1998) “Robert Frank and the filmic photograph” vol.22

・Claude Cookman(2008) “Henri Cartier - Bresson Reinterprets his Career” vol32

・Patricia Allmer (2012) “Lee Miller's Revenge on Fascist Culture” vol.36

History of Photography	論文数	ファッション写真家を題材にした論文
volume.1(1977)	36	0
volume.2(1978)	36	1
volume.3(1979)	34	0
volume.4(1980)	34	0
volume.5(1981)	33	0
volume.6(1982)	33	1
volume.7(1983)	35	0
volume.8(1984)	33	0
volume.9(1985)	34	0
volume.10(1986)	36	0
volume.11(1987)	34	0
volume.12(19878)	34	1
volume.13(1989)	32	0
volume.14(1990)	36	0
volume.15(1991)	35	1
volume.16(1992)	33	0
volume.17(1993)	41	0
volume.18(1994)	33	1
volume.19(1995)	32	1
volume.20(1996)	35	1
volume.21(1997)	36	0
volume.22(1998)	34	0
volume.23(1999)	33	0
volume.24(2000)	34	0
volume.25(2001)	33	0
volume.26(2002)	35	0
volume.27(2003)	36	0

volume.28(2004)	35	0
volume.29(2005)	34	0
volume.30(2006)	33	1
volume.31(2007)	34	0
volume.32(2008)	32	0
volume.33(2009)	35	0
volume.34(2010)	38	1
volume.35(2011)	34	0
volume.36(2012)	35	0
volume.37(2013)	32	0
volume.38(2014)	32	0
volume.39(2015)	33	0
volume.40(2016)	34	0
volume.41(2017)	33	0
合計	1404	9

{Fashion Therory　に掲載されたファッション写真家に関する論文}

・Paul Jobling (2002) “On the Turn—Millennial Bodies and The Meaning of Time in Andrea Giacobbe's Fashion Photography” vol.6

・Rebecca Arnold(2002) “Looking American: Louise Dahl-Wolfe's Fashion Photographs of the 1930s and 1940s” vol6

・Becky E. Conekin(2006) “Lee Miller: Model, Photographer, and War Correspondent in Vogue, 1927–1953” vol10

・ Änne Söll(2009) “Pollock in Vogue: American Fashion and Avant-garde Art in Cecil Beaton's 1951 Photographs” vol13

Fashion Theory	論文数	ファッション写真家を題材にした論文
volume.1(1997)	19	0
volume.2(1998)	18	0
volume.3(1999)	18	0
volume.4(2000)	18	0
volume.5(2001)	15	0
volume.6(2002)	16	2

volume.7(2003)	18	0
volume.8(2004)	18	0
volume.9(2005)	17	0
volume.10(2006)	16	1
volume.11(2007)	20	0
volume.12(2008)	20	0
volume.13(2009)	18	1
volume.14(2010)	23	0
volume.15(2011)	23	0
volume.16(2012)	33	0
volume.17(2013)	27	0
volume.18(2014)	20	0
volume.19(2015)	19	0
volume.20(2016)	22	0
volume.21(2017)	29	0
合計	427	4

2. 2 特定の人物を題材とした論文

2.1 では、ファッション写真家についての論文を調査したが、思った以上に該当数が少なかった。また、ファッション写真家に限らず日本人がそもそも研究されていない可能性が高いと感じたため、以下 2.2 の通り項目を変更し再び調査を行なった。

2.2 では、掲載論文のうち特定の人物を主題とした論文のうち日本人に関係するものがどれだけあるか調査した。結果、History of fashion で 695 件中 7 件、Fashion theory では 33 件中 0 件だった。数が少ないので該当論文を列挙する。研究対象となった日本人は、明治時代に外国人観光客を相手に写真を撮っていた人物や、世界的に作品が評価され海外で展覧会を頻繁に行った作家で、日本国内での知名度とは関係していないようだ。日本の雑誌では、日本人についての論文が高い割合で見つかった。

{History of photography に掲載された日本人に関する論文}

・Ann Wilsher & Benjamin Spear(1981) “Kusakabe Kimbei” vol.5

・John Clark(2005) “Shomei Tomatsu” vol,29

・Mio Wakita (2009) “Selling Japan: Kusakabe Kimbei's Image of Japanese Women” vol.33

・Philip Charrier (2010) “The Making of a Hunter: Moriyama Daidō 1966–1972” vol.34

・Melissa Miles(2014) “Through Japanese Eyes: Ichiro Kagiyama and Australian–Japanese Relations in the 1920s and 1930s” vol.38

・Joshua Petitto(2016) “The Oceanic Vision of Sugimoto Hiroshi” vol.40

・Philip Charrier(2017) “Taki Kōji, Provoke, and the Structuralist Turn in Japanese Image Theory, 1967–70” vol.41

History of Photography	論文数	特定の人を題材にした論文	特定の日本人を題材にした論文
volume.1	36	20	0
volume.2	36	15	0
volume.3	34	15	0
volume.4	34	16	0
volume.5	33	17	1
volume.6	33	19	0
volume.7	35	18	0
volume.8	33	21	0
volume.9	34	14	0
volume.10	36	12	0
volume.11	34	17	0
volume.12	34	19	0
volume.13	32	16	0
volume.14	36	18	0
volume.15	35	18	0
volume.16	33	18	0
volume.17	41	24	0
volume.18	33	14	0
volume.19	32	16	0
volume.20	35	19	0
volume.21	36	18	0
volume.22	34	15	0
volume.23	33	16	0

volume.24	34	15	0
volume.25	33	15	0
volume.26	35	16	0
volume.27	36	17	0
volume.28	35	19	0
volume.29	34	13	1
volume.30	33	16	0
volume.31	34	14	0
volume.32	32	19	0
volume.33	35	17	1
volume.34	38	18	1
volume.35	34	18	0
volume.36	35	15	0
volume.37	32	17	0
volume.38	32	19	1
volume.39	33	17	0
volume.40	34	17	1
volume.41	33	18	1
合計	1404	695	7

{Fashion theory に掲載された日本人に関する論文}　該当なし

Fashion Theory	論文数	特定の人を題材にした論文	特定の日本人を題材にした論文
volume.1(1997)	19	0	0
volume.2(1998)	18	1	0
volume.3(1999)	18	1	0
volume.4(2000)	18	2	0
volume.5(2001)	15	0	0
volume.6(2002)	16	4	0
volume.7(2003)	18	3	0
volume.8(2004)	18	3	0
volume.9(2005)	17	1	0
volume.10(2006)	16	1	0

volume.11(2007)	20	3	0
volume.12(2008)	20	1	0
volume.13(2009)	18	1	0
volume.14(2010)	23	3	0
volume.15(2011)	23	0	0
volume.16(2012)	33	0	0
volume.17(2013)	27	3	0
volume.18(2014)	20	1	0
volume.19(2015)	19	2	0
volume.20(2016)	22	1	0
volume.21(2017)	29	2	0
合計	427	33	0

日本写真芸術学会 1991 年創立

日本写真芸術学会誌	論文数	特定の人を題材にした論文	特定の日本人を題材にした論文
volume.1(1992)	15	1	0
volume.2(1993)	10	2	1
volume.3(1994)	6	1	0
volume.4(1995)	11	1	0
volume.5(1996)	9	1	0
volume.6(1997)	8	0	0
volume.7(1998)	10	1	0
volume.8(1999)	10	2	0
volume.9(2000)	12	6	1
volume.10(2001)	13	4	2
volume.11(2002)	7	5	0
volume.12(2003)	8	1	1
volume.13(2004)	4	1	0
volume.14(2005)	9	3	0
volume.15(2006)	7	3	2
volume.16(2007)	2	2	0
volume.17(2008)	7	3	2

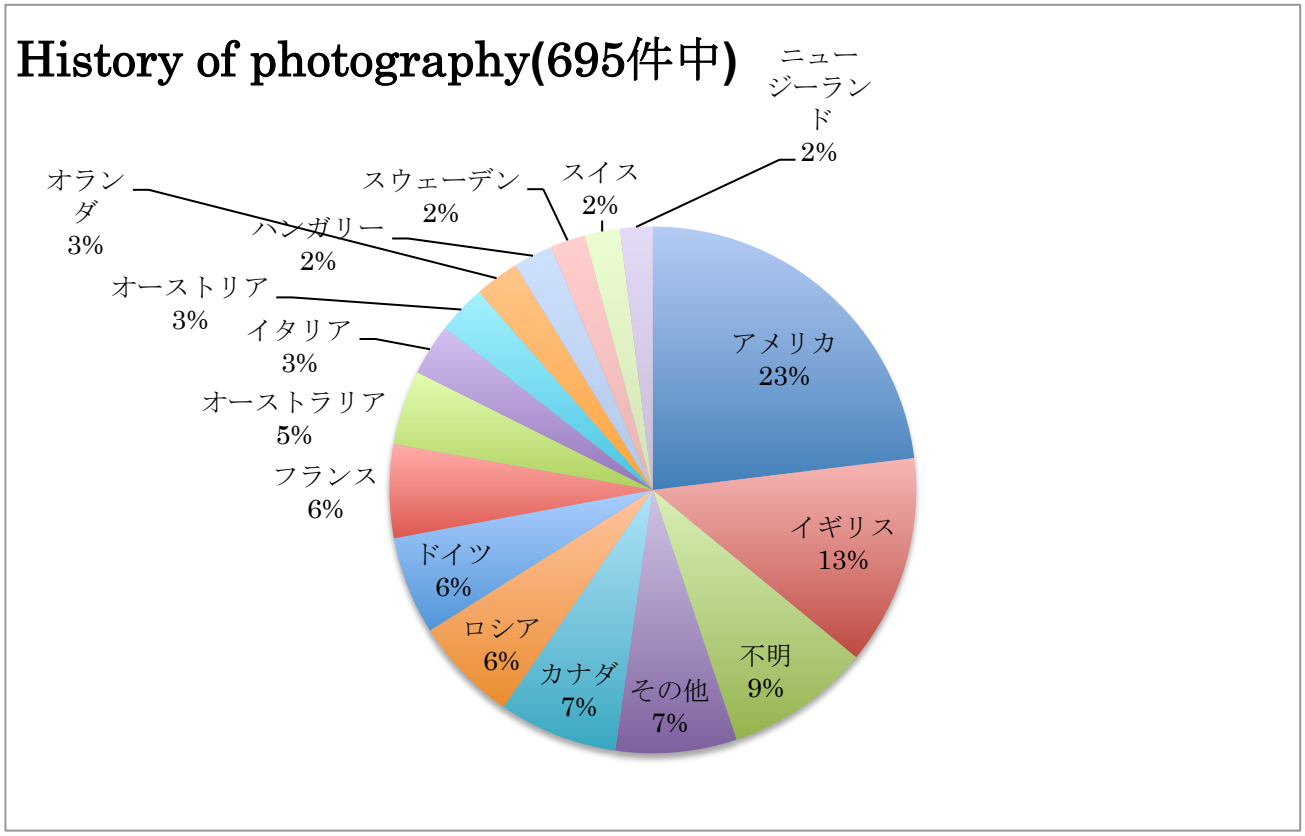
volume.18(2009)	3	0	0
volume.19(2010)	3	1	0
volume.20(2011)	3	0	1
volume.21(2012)	1	0	0
volume.22(2013)	7	1	1
volume.23(2014)	3	1	0
volume.24(2015)	3	1	1
volume.25(2016)	4	1	1
volume.26(2017)	1	0	0
合計	176	42	13

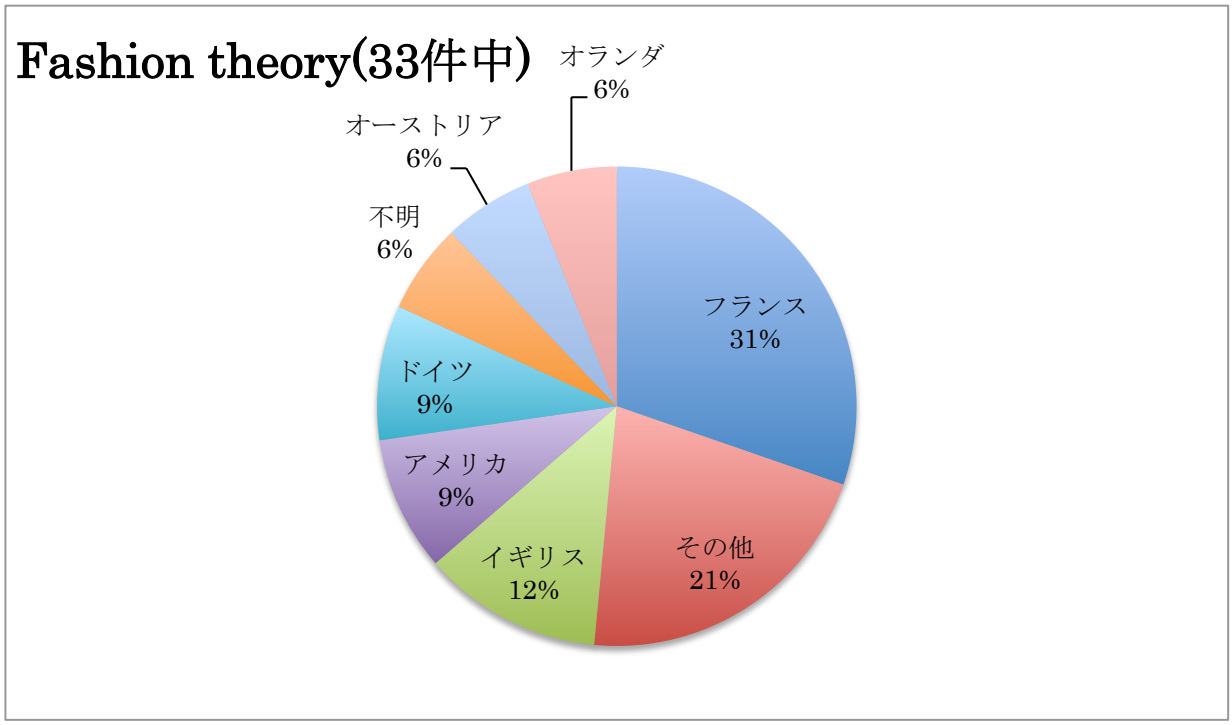
ファッションビジネス学会誌　1995 年創立　会員数 466 名(H２５年)

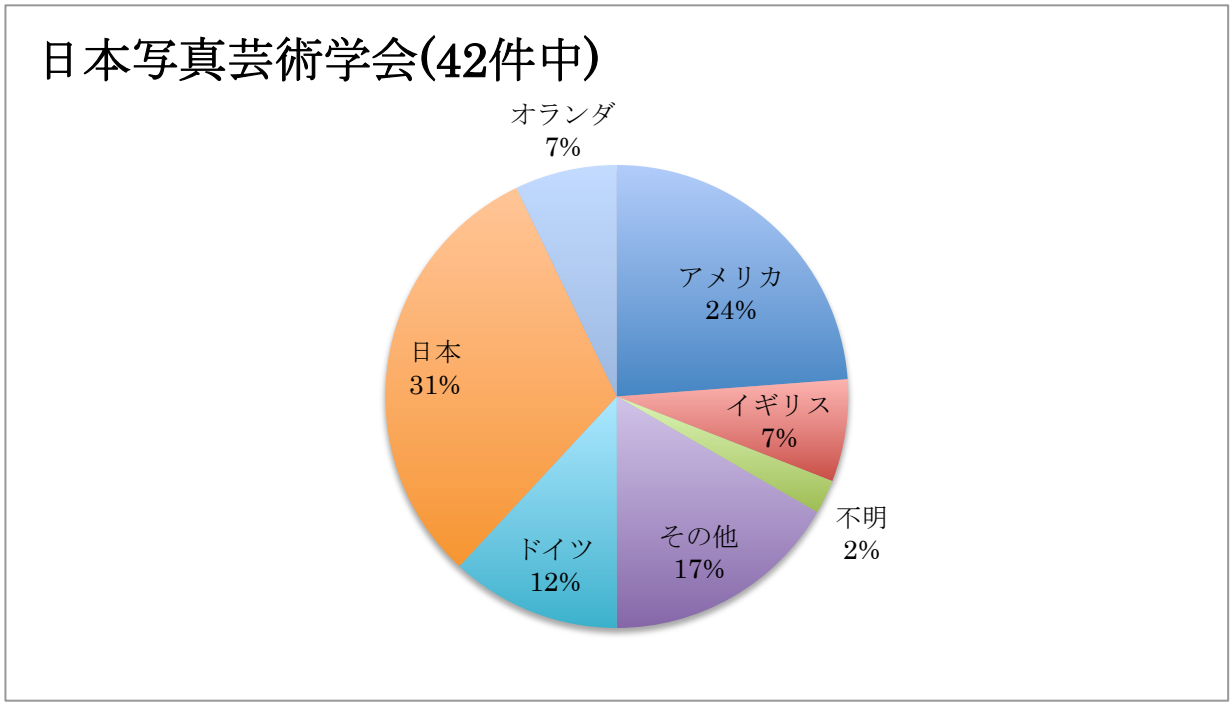
FB 学会誌	論文数	特定の人を題材にした論文	特定の日本人を題材にした論文
volume.1(1995)	9	0	0
volume.2(1996)	11	0	0
volume.3(1997)	11	0	0
volume.4(1998)	9	0	0
volume.5(1999)	14	0	0
volume.6(2000)	7	0	0
volume.7(?)	13	0	0
volume.8(2003)	16	0	0
volume.9(2004)	12	0	0
volume.10(2005)	10	0	0
volume.11(2006)	19	0	0
volume.12(2007)	8	0	0
volume.13(2008)	5	0	0
volume.14(2009)	9	0	0
volume.15(2010)	8	0	0
volume.16(2011)	9	0	0
volume.17(2012)	13	1	1
合計	183	1	1

2.3 研究主題の対象になった人物の国籍

2.2 から、海外の 2 雑誌において日本人が研究対象とされることが少ないことがわかった。次に、どのような国の人々が研究されているのか全件調査した。その結果は以下のグラフの通りである。




Fashion theory(33件中)
オランダ
6%
オーストリア
6%
不明
6%
フランス
31%
ドイツ
9%
アメリカ
9%
イギリス
12%
その他
21%


日本写真芸術学会(42件中)
オランダ
7%
アメリカ
24%
日本
31%
イギリス
7%
不明
2%
ドイツ
12%
その他
17%

3 結論・考察

2.1,2.2 より、米国の写真・ファッション研究の分野で日本人がほとんど研究対象とされていないこと、日本のそれら両分野でファッション写真が語られていないことがわかった。結果として必然的に、日本人ファッション写真家に関する論文が筆者の直感通り少ないと考えられる。

そして 2.3 から米国の写真･ファッション研究の分野では米国及び一部ヨーロッパを対象とした研究が多く、その他東ヨーロッパやアジアについての研究が少ないことがわかった。また、日本においては日本を対象とした研究の割合が高いことがわかった。

最後に、研究という世界の右も左も分からない中であちこち彷徨ってなかなか進展しない私にここまでご指導下さった小熊英二教授にお礼を申し上げます。

4 参考文献

1983,世界写真全集 9 ファッションフォトグラフィ,堀内末男
1998,グラフィック･デザインにおける写真 ： ファッション雑誌とモダニズムの受容,伊集院敬行
2000 ファッション写真論への試み ：『U.S.Vogue』、『U.S.Bazaar』両誌におけるファッション写真の変遷と視線の関係　森友令子
2003,モードと身体, 成実弘至
2000,「ヴォーグ」1892 年-　,古賀令子
2006,『Vogue』に見る 1969 年代ファッション　,古賀令子
2006,WorldFashionphotographers Vo.1 ,河村民子
2006,Worldfashionphotographers Vo.2 ,河村民子
2007,「アンアン」1970,赤木洋一
2008,日本の写真家 101,飯沢耕太郎
2012,Vanitas No.003, 廣田裕史,水野大二郎
2015,ファッション誌を紐解く,富田淳子
2017「広告」を飼い馴らす ：1950 年代の『装苑』における誌面構成と「広告」の関係に焦点を当てて　工藤 雅人
参考サイト

History of photography
http://www.tandfonline.com/toc/thph20/current
Fashion theory
http://www.tandfonline.com/toc/rfft20/current
ファッションビジネス学会論文詩
http://www.fbsociety.com/publication/backnumber00.html
日本写真学会誌
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/photogrst/-char/ja/